

令和2年度 第1回真庭市総合計画審議会 議事概要

日時：令和2年4月27日（月）
18時30分～20時10分
場所：本庁舎会議室（ほか（ウェブ会議））
参加者：別紙のとおり

1 開 会

2 市長あいさつ

- ・ バイオマス産業とし、環境関係、エネルギー関係を含めて5年で思った以上に前進してきたことはあるものの、出生数の減少が著しいこともあり、現実を見つめ直すことが必要。
- ・ 前回の策定時には、世の中全体として、SDGsや共生社会の価値観や方向性がなかった。真庭の人の絆や地域の自治力の維持向上、子供を生み育てやすい地域社会、お互いに助け合う共生社会、健康長寿社会を作っていくことが必要。
- ・ コロナウイルス感染拡大の関係で、日本中・世界中が過度の都市への人口集中の見直しなど人々の価値観が変わる大きな転換点である。過疎懇の提言にもあるように、行政と住民が一体となり、関係人口の支援のもと希望を持って揺るぎのない地域社会の構築に努力していくことが必要。

3 会長・副会長選出

（委員互選による）

大月会長：

価値観を変えて未来を見据えた地域づくり等を考えていくために、皆さんの英知を結集してやっていきたい。そして、真庭が未来を見据えたモデルとなる地域と言われるようにしていきたい。

杉本副会長：

女性目線の考えや思いを提案していきたい。大きな課題に向けて取り組み、将来も安全安心なよりよい真庭市を作っていきたい。

4 報告事項

資料2に基づき事務局からの説明

（以下、質疑応答）

- ・ 現状において、観光・雇用は減りつつあると思われるが、人数等に変更しないことでのいいのか。
→懸念事項ではあるが、事業進捗に関しては細心の注意を払い、初期の目的を達成できるようにさまざまな方策を検討していきたい。
- ・ 関係人口はどのような定義か。（観光以上定住未満という認識である。）
→把握することは難しいが、真庭市は訪問するだけでなく、関心を持っていただいて応援していただく人口と考えている。
- ・ 総合計画を1年延ばすときの目標値はどのように設定したのか。
→現状を踏まえ、上方修正しているものもあり、単に1年分の数値上昇だけでない。

5 協議事項

(以下、主な指摘と事務局回答)

- ・ アンケートは計画改訂時だけでなく、定期的を実施した方がよい。
→個別具体的な事業では適宜実施している。総合計画等の総括的なアンケートは5年に1度の実施であった。今後は具体的な事業において、市民の意識調査等を適宜行いたい。
- ・ ワークショップについて、意見を収集する方法を検討してほしい。
→事前に市としての方針や計画等を説明し、不足等を指摘いただく方式だが、実施方法が統一できていない。今後は統一する。
また、今年度においては感染症の影響もあり、大勢が集合した実施は困難かもしれないが、よりよい方法を検討する。
- ・ 「価値人口」というのは考えられた良い言葉である。
- ・ 団塊の世代について、支援する立場から支援される立場にならないように、社会貢献等で力を発揮してもらうことを考えることが必要である。
- ・ 価値人口の増加により、人口減少が克服可能な前向きなビジョンであるというのはいきなり過ぎではないか。
→人口減少による悪影響を減少させることで課題に挑戦するということ。
- ・ 計画策定が行政的になりすぎではないか。各委員の分野において、各自目標を設定するのはどうか。現場と計画にずれが生じないように工夫が大切である。
- ・ 疲弊された現状に元気をつけていけるのが文化である。今回の改訂では文化という側面のアプローチが足りない。新たな枠を設けてもいいのではないか。
→文化は、「子育て・教育部会」に該当し、検討する。総合戦略策定時点では漏れていたため、総合計画には明記している。今後は真庭の多様性を高めていきたい。
- ・ 文化は一筋縄ではいかない。コロナ感染症予防の観点においても、生きる・食べる・仕事をするとというのが大前提であり、真っ先に切られてしまうというのが事実である。よって、今後の取り組みにどのように盛り込むかを検討が必要である。

6 その他

次回は6月中に開催を検討している。

しかし、コロナ感染症の状況を踏まえて、日程や開催方法を決定する。

7 閉会